

Newsletter



NO. 93 2001. 9. 15

〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15 (学) 産業能率大学内 日本教育情報学会 運営本部事務局
Tel: 03-3704-9168 Fax: 03-3704-9246 <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei>
(学協会情報発行サービスのドメイン名移行に伴い、URLが変更になっております。「nacsis.」→「nii.」)

日本教育情報学会 第17回年会 参加申込み受付中 (事前参加受付 10月26日まで)

Newsletter NO. 92でご案内のとおり、本年度の年会は、11月10日11日の両日、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に開催いたします。「IT社会における日本の学校変革」をテーマとした本間政雄京都大学事務局長の記念講演をはじめ、「学校における情報教育カリキュラムの課題—生涯学習を見通して—」と「情報教育における評価の観点と評価の方法」の2つのパネル討論、さらには「学校のネットワーク化における行政と学校の協力」をテーマとした自主パネルを行います。研究発表も4つの課題、1つの自主課題をはじめ多彩な発表が行われる予定です。

参加お申込みにつきましては、下記の要項をご熟読の上、期限内に手続きくださいますようお願いいたします。多数のご参加とお待ちしております。

期 日 2001年11月10日(土)・11日(日)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

所在地 〒151-0062 東京都渋谷区代々木神園町3番1号 (TEL03-3467-7201)

交 通 小田急線 参宮前駅下車 徒歩7分

地下鉄千代田線 代々木公園駅下車 徒歩10分

事務局 日本教育情報学会 運営本部事務局内 日本教育情報学会第17回年会実行委員会

日 程

当日受付場所：センター棟1階 104室

11月10日(土)	11月11日(日)
9:30～12:00 課題研究・一般研究	9:30～10:50 課題研究・一般研究・自主パネル
12:00～13:00 昼食休憩	
13:00～13:45 総会・学会賞表彰式	11:00～13:00 パネル討論Ⅰ・一般研究
14:00～15:00 記念講演	13:00～14:00 昼食休憩
15:10～16:50 一般研究・課題研究・自主課題	14:00～16:00 パネル討論Ⅱ・一般研究
17:00～19:00 懇親会	

(1) 記念講演

テーマ 「IT社会における日本の学校変革」 本間 政雄(京都大学事務局長)

(2) パネル討論Ⅰ

テーマ 「学校における情報教育カリキュラムの課題－生涯学習を見通して－」

[コーディネータ] 堀田龍也(静岡大学)

- [パネリスト]
- ・プレゼンテーションの視点：堀口秀嗣(国立教育政策研究所)
 - ・コンピュータ活用・校内LANの視点：井口磯夫(十文字学園女子大学)
 - ・インターネットの視点：佐々木真理(京都教育大学)
 - ・ホームページの視点：加藤直樹(岐阜大学)

[情報教育のとらえ方]

1999年7月に関係各省の局長・課長による総理直属のプロジェクトチームから、バーチャルエージェンシー「教育の情報化プロジェクト」報告が総理に提出されました。この報告の内容は2005年を目標に全国すべての学校のすべての教室において、すべての教員がすべての授業でコンピュータ・インターネットを活用することをめざしています。

これによって、学習者は教員から与えられた情報を受動的に吸収するだけでなく、自ら必要とする情報について考え、ネットワークを通じて得られた情報から目的に合ったものを取捨選択したり、再編成したりすることを日常的に行うようになります。学習者はこのような学習を通じてさまざまな情報を積極的に収集・整理・活用するとともに、自ら主体的に学び考え、その結果を論理的に組み立てて表現・主張する能力を身につけることをねらっています。すなわち、コンピュータ・インターネットを活用することによって、学習者のコミュニケーション能力を飛躍的に高めることが情報教育の大きなねらいです。

[パネル討論Ⅰの趣旨]

以上のように情報教育をとらえ、その内容の重点項目を、プレゼンテーション、インターネットの活用、校内LANの活用、コンピュータの活用、ホームページの制作とし、それぞれの項目について教科学習で効果的に実践している事例に基づいて、情報教育の課題について討論します。

(3) パネル討論Ⅱ

テーマ 「情報教育における評価の観点と評価の方法」

[コーディネータ] 中村祐治(横浜国立大学)

後述の課題研究4の発表者の中から4～5名をパネリストとしてパネル討論を行います。

(4) 自主パネル

テーマ 「学校のネットワーク化における行政と学校との協力」

[コーディネータ] 本郷 健(川村学園女子大学)

- [パネリスト]
- 坂井岳志(東京都世田谷区立千歳小学校)
 - 永嶋賢一(埼玉県所沢市立視聴覚・教育センター所長)

鎌田和宏（東京学芸大学付属世田谷小学校）

中島武志（東村山市立第三小学校）

各学校において急速にネットワーク化が進められている。しかし、教師の希望に沿った形態でのネットワークが進められない学校がある。学校の属する自治体での条例が学校のネットワーク化を阻む原因になっていることもある。この種の問題では各自自治体の行政担当者と学校の教職員が幅広く協力して、教育に役立つネットワークの構築を目指すことが求められている。そのため行政と現場がどのような協力をするべきかを議論する場を設けたい。

（5）課題研究テーマ

課題1. 「情報教育における学力の考え方・とらえ方」

〔コーディネータ〕赤堀侃司（東京工業大学教育工学開発センター）

新教育課程下の学校教育では、「生きる力」を育てる教育をめざした新しい学力の形成が期待されています。この新学力観を情報教育の観点からどのようにとらえたらいいのか、また、情報教育がめざす学力とは何かなどの課題を認知科学の視点や構成主義の学習理論の視点から検討したい。

課題2. 「学力低下問題への情報教育への対応の仕方」

課題3. 「学力形成における情報教育の役割」

〔コーディネータ〕堀口秀嗣（国立教育政策研究所）、木下昭一（聖徳大学）

教育内容の厳選により新教育課程下の学校教育では、学力低下を招くおそれがあるといわれ、基礎基本の確実な習得が求められています。わが国の教育は国際的な学力調査の結果から、学力低下の傾向がみられるのか。また、諸外国では情報教育に対応した学習活動によってどのような学力の育成を重視しているのかなど、国立教育政策研究所等が関係してきた学力調査等を参考に諸外国の学力問題の考え方と情報教育の対応とともに、今後のわが国の検討課題について検討したい。

新教育課程における学習指導要領のもとでは、基礎基本の確実な習得による学力形成を求めています。教科学習におけるマルチメディア活用などの情報教育は「生きる力」を育てる教育に向けてどのような役割を学力形成における学習指導の工夫が期待されるか、小・中・高校の対応課題について検討したい。特に、小学校の情報教育の役割、中学校「技術家庭」の情報教育の役割、高校の教科「情報」の役割を重点に置きたい。

課題4. 「情報教育における評価の観点と評価の方法」

〔コーディネータ〕中村祐治（横浜国立大学）・井口磯夫（十文字学園女子大学）：2名？

新教育課程下の教育活動については「評価の観点」を設け、絶対評価による評価が行われます。そのため、小・中学校の教科や総合的な学習の時間における「情報活用の実践力」を育てる学習活動での望ましい「評価の観点」は何か求められます。また、その「評価の観点」に対応した「評価の方法」としてどのような評価法が望ましいかについて、具体的な評価の観点と評価の方法について検討したい。特に、情報教育に重点を置いた統合的な学習の時間、中学校の「技術家庭」、高校の教科「情報」における評価の観点と評価方法を重点に置きたい。

自主課題 「教師間の情報流通を助けるネットワーク」

〔コーディネータ〕鳥居雄司（東京都立墨田工業高等学校）

校務で用いる文書、共通教材などネットワークを活用することによって情報を共有し、教育活動を効率化できる面がたくさん考えられるにもかかわらず、目立った発展が見られない。これらの情報は教職員の転勤等によって、再び一から作り上げるようなことが長年行われてきている。この古くて新しい課題についての解決の糸口を見つけるべく、この課題研究を設けた。

(6) 参加申込方法

参加申込書(葉書)に必要事項をご記入の上、第17回年会実行委員会事務局まで送付して下さい。送付の際には、お手数ですが切手をお貼り下さい。お支払いは、同封の郵便振替用紙をご利用ください。期日までに申しただけない方は、当日参加扱いになります。振込みは、若干事務手続きに時間がかかるため、下記期日までとします。期日を過ぎた場合は、当日会場受付でお支払いください。その場合、参加費は当日扱いとなります。

参加申込締切 2001年10月26日(金) 必着

振込期限 2001年10月31日(水) 郵便局窓口期限

郵便振替口座番号 00180-7-52948

口座名 日本教育情報学会第17回年会

(学会本部事務局の口座とは異なりますので、ご注意ください)

・参加費

・会員の予約の場合

参加費 3,000円 論文集 3,000円 懇親会 5,000円

・当日参加・会員でない場合

参加費 4,000円 論文集 3,000円 懇親会 5,000円

(論文集は、年会当日受付にてお渡しいたします)

・論文集の郵送申込について(年会に参加されない方)

年会に参加されないで論文集を購入希望の方は、参加申込書の該当欄にご記入の上、申込をしてください。年会終了後論文集を送付いたします。

論文集 3,500円(郵送費、事務諸経費を含む)

・宿泊について

宿泊については、各自でご手配ねがいます。

(7) 年会発表一覧(9月10日現在)

(一般研究) 情報教育の展開 10日(土) 9:30~12:00 A会場

- 1A1 情報教育の新たな試みとその展開—女子中学生へのパソコン組み立て実践教育
増澤 文徳(東京成徳大学高等学校)、塚田 慶一(東京成徳短期大学)
- 1A2 職業教育における情報教育の役割
本村 猛能(川村学園女子大学)、工藤 雄司(筑波大学附属坂戸高等学校)
- 1A3 新教科「情報」に関する「情報科教育法」のあり方とその実践に関する研究
大西 慶一(大阪女子短期大学)
- 1A4 情報活用能力の育成についての考察と実践(2)
川地 保昌(岐阜県立大垣農業高等学校)
- 1A5 学年進行に伴う学習へのニーズの変化
和田 武(愛媛大学)、南本 長穂(関西学院大学)
- 1A6 情報教育の授業方法の提案とその分析(2)インターネット情報のとらえかた
川口 恭子(梅花短期大学)
- 1A7 SOHO ネットワーク教育の試み
矢野口 聡(文京女子大学)

- 1 B 1 小学校における検索エンジン
須藤 史晴・辻 義人・進藤 智洋(東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校)
- 1 B 2 科学リテラシーの形成を目指した Web 教材の開発
堀 圭二(滋賀大学大学院), 宮田 仁(滋賀大学)
- 1 B 3 ネットワークを使った学習教材開発についての考察
成瀬 喜則・早勢欣和(富山商船高等専門学校), Tom Lough (Murray State University, USA)
- 1 B 4 3Dプロットによる切削システム
堀内 和寛・伊藤 穂高(明星大学大学院), 光成 豊明(明星大学)
- 1 B 5 教育用CGソフトウェアの試作
伊藤 穂高・堀内 和寛(明星大学大学院), 光成 豊明(明星大学)
- 1 B 6 教育用3次元モデルソフトウェア
光成 豊明(明星大学), 伊藤 穂高・堀内 和寛(明星大学大学院)
- 1 B 7 資料の電子ファイリングと検索
渡辺 昌介(武蔵野情報学園大学部), 横村 宏司(亜細亜大学)

(課題研究1) 情報教育における学力の考え方・とらえ方 10日(土) 9:30~12:00 C会場

- 1 C 1 情報教育において学習者の理解をどうとらえるか
塚本 榮一(東洋英和女学院大学)
- 1 C 2 情報活用能力とメタ認知能力の関連
赤堀 侃司(東京工業大学)
- 1 C 3 高校新教科『情報』に期待される学力
武井 恵雄(帝京大学)
- 1 C 4 情報教育における学力の考え方・とらえ方—沖縄県の教育実践事例を通して—
米盛 徳市(琉球大学)
- 1 C 5 情報教育のゴールと学力
伊藤 紘二(東京理科大学)

(一般研究) 遠隔教育システム

- 1 D 1 遠隔教育システムを用いた複数大学院授業の選択履修の課題
—受講者が各大学院の授業の中から選択受講—
谷口 知司・後藤 忠彦(岐阜女子大学), 生田 孝至(新潟大学), 加藤 直樹・村瀬 康一郎
(岐阜大学)・有園 格(静岡文化芸術大学)
- 1 D 2 大学間の連携による e-University System の検討
加藤 直樹・村瀬康一郎(岐阜大学), 後藤 忠彦(岐阜女子大学), 生田 孝至(新潟大学),
若山 暁一郎(十文字学園女子大学), 有園 格(静岡文化芸術大学), 松下 文夫(香川大学)
- 1 D 3 e-Learning を支援する教育システムの機能に関する検討
村瀬康一郎・加藤 直樹(岐阜大学), 生田 孝至(新潟大学), 後藤 忠彦(岐阜女子大学)
- 1 D 4 情報通信技術を活用した生涯学習支援に関する研究(1) —適性の違いによる遠隔学習の受け止め方—
齋藤 陽子(岐阜大学), 村瀬康一郎・加藤 直樹・伊藤 宗親(岐阜大学)
- 1 D 5 デジタル・アーカイブを用いた文化交流の課題
三宅 茜巳・後藤 忠彦・谷口 知司(岐阜女子大学)
- 1 D 6 女性関連施設職員のためのICT習得ポータルサイトの構築
安達 一寿(十文字学園女子大学), 森高 桂子(国立女性教育会館)

(一般研究) ネットワーク活用 10日(土) 15:10~16:50 A会場

- 2 A 1 小学校での地域ネットワークの活用ー地域の全家庭への学習情報の提供
横山 隆光 (岐阜県坂内小学校). 加藤 直樹 (岐阜大学)
- 2 A 2 近隣にある小学校間の交流学习
荒川 信行 (品川区立三木小学校). 石澤美智子 (大田区立赤松小学校)
- 2 A 3 中学校数学教員を対象とした Web ベースの教育実践支援交流システムの開発(1)
神月 紀輔 (滋賀大学大学院). 宮田 仁 (滋賀大学)
- 2 A 4 岐阜大学教育学部, 岐阜県総合教育センター及び岐阜県内の高等学校を結ぶジョイント
講座「楽しく学ぶ数学シリーズ」
中馬 悟朗 (岐阜大学). 服部 晃 (岐阜県総合教育センター). 加藤 直樹 (岐阜大学)
- 2 A 5 AHPによる大学の授業評価
宮地 功 (岡山理科大学)

(一般研究) ネットワーク活用学習システム 10日(土) 15:10~16:50 B会場

- 2 B 1 XML/XSL を活用した教育システム
村瀬 孝宏 (中京短期大学). 磯本 征雄 (名古屋市立大学)
- 2 B 2 多地点同時TV会議を用いた共同学習の交流学习について
宇山 葉子 (松下電器産業 (株))
- 2 B 3 協調活動でのリーダー特性とグループ活動技能の関連
綿井 雅康・安達 一寿・中尾 茂子(十文字学園女子大学)
- 2 B 4 新入社員におけるハイパーテキスト型教育システムの開発及び教育の効率化の検討
栢田 崇任 (中部大学大学院). 足達 義則 (中部大学). 尾崎 正弘・武岡さおり
(名古屋女子大学). 江島 徹郎 (愛知教育大学)
- 2 B 5 グループウェアを利用した総合課題演習の評価
中尾 茂子・安達 一寿・綿井 雅康 (十文字学園女子大学)

(課題研究2) 学力低下問題への情報教育への対応の仕方

(課題研究3) 学力形成における情報教育の役割 10日(土) 15:10~16:50 C会場

- 2 C 1 コンピュータとLANを活用した算数の学び合い
ー基礎基本を生かし, 発展的に考える算数学習
河村 一郎 (品川区立第三日野小学校). 荒川 信行 (品川区立三木小学校)
- 2 C 2 ネットワーク技術の世界をひらく中学校技術科「情報とコンピュータ」のカリキュラム開発
尾高 進 (東京学芸大学大学院). 村松 浩幸 (中野市立中野平中学校). 川俣 純 (北相
馬郡藤代町立藤代中学校). 本多 満正 (東京大学教育学部附属中等教育学校). 渡辺 浩康
(新宿区立西戸山第二中学校). 鈴木 善晴 (名古屋大学教育学部附属中学校). 坂口 謙一
(東京学芸大学). 大谷 良光 (弘前大学教育学部)
- 2 C 3 教科(情報)の役割と普通教科との接点
若菜 初 (都立新宿山吹高校)
- 2 C 4 ICTに関する国際調査
堀口 秀嗣 (国立政策教育研究所)
- 2 C 5 学力形成における情報教育の役割
木下 昭一 (聖徳大学)

(自主課題) 教師間の情報流通を助けるネットワーク 10日(土) 15:10~16:50 D会場

- 2D1 教育活動の効率化とネットワーク -高校における意思決定-
鳥居 雄司 (東京都立墨田工業高等学校)
- 2D2
西田 友幸 (大田区立大森第六中学校)
- 2D4
清水 良男 (東京都立向丘高等学校)
- 2D5
野村 淳一 (豊島区立大成小学校)

(一般研究) 情報教育カリキュラム 11日(日) 9:30~10:50 A会場

- 3A1 新入生の文章力に対する一考察
片山 章郎 (順正短期大学)
- 3A2 「情報」教育における VRML の利用
堀 恵子 (文京大学附属高等学校)
- 3A3 企業のO A化の中でのコンピュータの学習に関する一考察
角田 真二 (十文字学園女子大学)
- 3A4 情報基礎教育における Web 型 CD 教材の開発(1)-情報処理教育カリキュラム日本語文書処理編
橋詰 恵雄・谷口 知司・楓森 博 (岐阜女子大学)
- 3A5 経営系学部数学教育における Excel ソルバー機能の活用について
石原 辰雄 (産能大学)

(一般研究) 情報教育システム 11日(日) 9:30~10:50 B会場

- 3B1 女子大生の携帯モバイル社会参加への主体度および波及効果
小田 和美・山下 恵 (東京女子体育大学), 杉村 淳子 (早稲田大学)
- 3B2 若年層における携帯電話の友人間コミュニケーションへの影響とそれに対応した情報教育のデザイン
藤村 裕一 (鳴門教育大学大学院)
- 3B3 情報教育を殆ど受けてこなかった女子大生の携帯メールとフリーメールの使い分けの現状把握と情報モラル教育が及ぼす影響
山下 恵・小田 和美 (東京女子体育大学), 杉村 淳子 (早稲田大学)
- 3B4 タイ国との遠隔同時共同授業における児童の意識の変容過程 (その3)
佐々木真理 (京都教育大学), 入矢 完(京都府加悦町立与謝小学校), 永田 健一
(京都府向日市立第五向陽小学校), マンガ カンガ チャリン (フェノイ大学)

(課題研究4) 情報教育における評価の観点と評価の方法 11日(日) 9:30~10:50 D会場

- 3D1 情報教育における達成度別評価方法の研究
小川 勤 (名古屋大学大学院)
- 3D2 情報教育における「自己の生き方について自覚を深める」についての評価場面
矢田 光宏 (鳥取市立久松小学校)
- 3D3 次に生かす評価~2年間の実践を通して~
小松広宣 (江戸川区立南葛西第二小学校)
- 3D4 国際交流WEBを利用した情報活用の実践力の育成
成田健之助 (名古屋市立助光中学校), Heidi Potter (JFET 日英教育交流団体)
- 3D5 高等学校教科情報テキストの開発と活用
佐藤正明 (岐阜県立岐阜工業高校)

(一般研究) 情報教育リーダー育成 11日(日) 11:00~13:00 D会場

- 4 D 1 新しい教育課題に対応するための教師による情報の組織化に関する研究
浅井 和行・大隅 紀和 (京都教育大学)
- 4 D 2 情報教育に関する教員研修の事例および課題 (2)
黒川 マキ (AST 関西経理専門学校), 林 徳治 (山口大学)
- 4 D 3 短期大学英文科における情報教育の工夫 (2)
齋藤 真弓 (山脇学園短期大学)
- 4 D 4 地域での情報教育の広がりをもとにした研究会の活性化と対策
中條 敏江 (石川県松任市立東明小学校), 加藤 隆弘 (金沢大学), 岡部 昌樹
(金沢経済大学), 堀田 龍也 (静岡大学)
- 4 D 5 Web ベースのティーチング・ポートフォリオを活用した授業改善支援システムの開発(1)
宮田 仁 (滋賀大学)
- 4 D 6 ネットワーク社会における高校生のコミュニケーション形態と
情報モラル教育の及ぼす効果・影響の検討
杉村 淳子 (早稲田大学), 小田 和美・山下 恵 (東京女子体育大学)

(一般研究) 遠隔協働学習 11日(日) 14:00~16:00 B会場

- 5 B 1 情報教育の普及を目指した学校向け Web サイトの構成
堀田 龍也 (静岡大学)
- 5 B 2 表現力の高まりをめざした交流学习における学習支援
ーテレビ会議システムを活用した授業実践を通して
奥田 純子 (熊本県球磨郡上村立上村小学校), 此川美奈代 (婦中町立宮野小学校),
堀田 龍也 (静岡大学)
- 5 B 3 学習者の理解度を考慮したハイパーテキスト型 CAI 教材の開発
武岡さおり・尾崎 正弘・岩下紀久雄・川田 博美 (名古屋女子大学), 江島 徹郎
(愛知教育大学), 足達 義則 (中部大学)
- 5 B 4 野草情報収集のためのHP構築と情報収集の効率化
山田 信雄 (岐阜県各務原市立那加第三小学校)
- 5 B 5 遠隔協働学習
辻松 康晴 (品川区立上神明小学校)
- 5 B 6 社会科学学習活動における WWW 作品の可能性について
ー「調べ学習」の問題点の克服の方法としての WWW 作品化ー
鎌田 和宏 (東京学芸大学)

(一般研究) プレゼンテーション 11日(日) 14:00~16:00 D会場

- 5 D 1 プレゼンテーション技術の向上を図る訓練プログラムの開発と評価 (1)
ー教員研修における個に応じた教授方法の検討
林 徳治 (山口大学), 真下 知子 (平安女学院大学), 谷口由美子 (三田学園)
- 5 D 2 地域からの Web コインテンツ発掘と e-learning ツール
酒井 弘雄 ((財)高度映像情報センター)
- 5 D 3 プレゼンテーション技術の向上を図る訓練プログラムの開発と評価 (2)
ープレゼンテーション技術演習を支援するマルチメディア教材の開発と評価
真下 知子 (平安女学院大学), 尾崎 悠子 (山口県田布施西小学校), 谷口由美子
(三田学園), 林 徳治 (山口大学)

5 D 4 プレゼンテーション技術の向上を図る訓練プログラムの開発と評価 (3)

—プレゼンテーション技術演習と評価

谷口由美子 (三田学園), 真下 知子 (平安女学院大学), 林 徳治 (山口大学)

5 D 5 センターが行う「授業にメディアを活用する方法」の在籍研修カリキュラムの考察

—授業のイメージを演習との組み合わせで伝える研修の方略と問題点

中村 武弘 (三重県総合教育センター), 堀田 龍也 (静岡大学)

5 D 6 分散型 P S E (Problem Solving Environment)

宮内ミナミ (産能大学), 塩谷 勇・坂井 卓磨・松村 有二・森本喜一郎 (産能大学)

※プログラムは今後、一部変更になる場合もありますので、ご了承ください。

申込書送付先・問い合わせ先

送 付 先: 〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15 (学)産業能率大学内
日本教育情報学会 第17回年会実行委員会事務局 宛
Tel:03-3704-9168 Fax:03-3704-9246
メールによる問合せ: 荒井元明 (ARAI_Motoaki@hj.sanno.ac.jp)

財団法人電気通信普及財団から平成13年度 研究調査助成 募集のお知らせ

要項, 申込書の詳細は財団法人電気通信普及財団のHPをごらんください。

<http://www.taf.or.jp/>

国立オリンピック記念青少年総合センターから研究紀要への投稿原稿の募集

本学会に多方面からご協力を願っており、また今年の年会会場でもありました国立オリンピック記念青少年総合センターから研究紀要の募集案内がきております。本学会会員も投稿資格がありますのでご案内いたしますとともに、積極的な投稿をお願いいたします。(次ページ)

なお、投稿規定については、国立オリンピック記念青少年総合センターのHPに掲載されておりますので、ご参照ください。 <http://www.nyc.go.jp/raise/c1.html>

国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要—第2号—投稿原稿募集要項

1. 発刊のねらい

青少年教育の振興に資するため、広く青少年教育関係者から青少年教育に関する理論や実践的な調査研究の成果を募り、その発表の場とする。

2. 発行予定日

平成14年3月

3. 投稿原稿のテーマについて

(1) 特集テーマ

「青少年の体験活動（ボランティア活動、自然体験活動等）」

平成14年度からの完全学校週5日制の実施に向けて、文部科学省は「全国子どもプラン」を推進しており、全国で青少年の体験活動機会が充実しつつあります。また、先頃改訂された「社会教育法」においても、教育委員会の事務として、様々な青少年の体験活動の機会の提供が規定される等、青少年の「生きる力」をはぐくむため、今後さらに「青少年の体験活動」は注目されると考えられます。

そこで、第2号は特に「青少年の体験活動（ボランティア活動、自然体験活動等）」に関するテーマの原稿を募集します。

(2) 一般テーマ

特集テーマ以外で広く「青少年教育」に関するもの

4. 投稿原稿の種類

「青少年教育」に関する調査報告、実践報告、事例紹介、論文、研究ノート、各種データ等

5. 投稿資格

青少年教育施設の職員、青少年団体の職員、社会教育主事・公民館主事・司書・学芸員等の社会教育関係職員、学校教育関係者、青少年教育関係学会の会員、青少年教育に関する研究を行う大学・研究所等の研究者等

6. 原稿の分量

おおむね、刷り上がり4ページ(8,000字)～10ページ(20,000字)程度

7. 原稿提出締め切り日

平成13年11月30日(金)

8. 掲載の採否等

投稿原稿は、国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要委員会の委員又は、研究紀要委員会が適当であると認める外部の専門家による査読を行い、その採否を決定する。

9. 原稿の提出方法

原稿は、フロッピー・ディスク及び用紙に印字したもの、又は、手書きしたもの(コピーでも可)を、郵送又は持参するか、E-mailの添付ファイルにより送付する。(ただし写真等については郵送又は持参すること)

10. 原稿の提出先

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター事業部事業課調査研究係

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL 03-3467-7201(内線 2359) E-mail kiyo@nyc.go.jp